中国最大規模の旅行博で新たな広域観光ルートを提案
～北京国際旅遊博覧会（BITE2014）に出展しました～

北京事務所

2014 年 6 月 27 日～29 日までの 3 日間、北京市内のオリンピック公園にあるコンベンションセンター「国家会議中心」において「北京国際旅遊博覧会（BITE2014）」が開催されました。期間中、81 の国と地域から、旅行・観光関連の企業や団体 985 団体が出展し、来場者は業界関係者と一般来場者を合わせ、約 11 万人に上りました。

大賑わいの日本パビリオン

BITE は、中国で最大規模を誇る旅行博です。業界関係者、一般消費者双方から高い注目度を誇り、メディアの取材や露出も多いことから、夏季休暇や国慶節の旅行商戦に大きな影響を与える一大イベントです。

クレア北京事務所は、毎年 BITE に出展を行っており、今回は日本パビリオン内に「日本各地展」として、茨城県、福島県、新潟県、横浜市、山梨県、佐賀県とともに共同出展を行い、地方自治体の観光 PR を行いました。

BITE 開催に合わせ、26 日に市内で開かれた「VISITJAPAN 合同観光説明会」へも参加して、直接中国の旅行業者に地域の魅力を PR したほか、27 日には現地大手メディアの取材も受けました。また、28 日には訪中していた太田国土交通大臣も会場を訪れ、当ブースを含めてご視察を頂きました。

観光庁・日本政府観光局（JNTO）が中心となって出展した日本パビリオンには、当事務所のほか、九州観光推進機構、中部観光推進機構、新潟市・佐渡市、札幌市など 12 の団体が地域の魅力を PR。パビリオン周辺は多くの来場者の人波で溢れ、大盛況となりました。

日本パビリオンは大混雑

クレアブースを視察する太田国土交通大臣

新たな広域観光ルートを来場者に PR！

訪日中国人観光客の間で圧倒的な人気を誇るのは、ゴールデンルートと呼ばれる、東京から富士山、京都・大阪を旅するルートです。しかし最近は、日本を訪れるのが２回目以降の、いわゆるリピーター客を中心として、北海道や沖縄など地方エリアへの人気が高まってきています。そこで今回の旅行博では、地域の魅力をより効果的に発信するため、各自治体と連携して広域観光ルートを新しく作成、会場で PR することとしました。

今回提案したのは、茨城県（水戸エリア）、福島県（いわき・会津エリア）、新潟県（新潟エリア）の ３ 県を鉄道で旅する太平洋-日本海横断ルート。それぞれの自治体の在中国事務所と連携し、地域が持つ自然や温泉、美食を盛り込んだ旅行コースのパンフレットを作成し、会場では各自治体の職員から直接、地域の魅力を売り込みました。宿泊先や移動手段など具体的な旅の相談にも応じられるよう、旅行会社（JTB）の協力も得ました。

中国では景品を活かしたプロモーションがとても有効なことから、アンケートに回答したり、自治体の開設している微信や微博のアカウントに登録すると、エコバッグや地域の限定グッズをプレゼントする取り組みもあわせて実施した結果、本当に多くの来場者の方にパンフレットを手に取って頂けました。日本には行ったことがないけれど、パンフレットやポスターの場所に是非行ってみたい、日本の地方のことをもっと知りたいという来場者からの質問も多く頂き、職員は対応に大忙しでした。

最終日の閉会数時間前には、用意していたパンフレットやノベルティグッズがほぼ全て無くなってしまい、中国での日本人気の高さを改めて実感した３日間でした。

３県の職員から地域の魅力を直接 PR

新規作成した広域観光ルートのパンフレット

来場者を呼び込む工夫

日本パビリオンは、広さ 22,000 ㎡の巨大な会場の最奥に位置していたにもかかわらず、会場では一番の盛り上がり。ただ漫然とブースを出展するのではなく、来場者に日本に関心を持ってもらうための、様々な工夫が見られました。

日本パビリオン内に設置されたステージブースでは終日イベントが行われ、中国で高い人気を誇るハローキティとの撮影会や、日本の観光地についてのクイズ大会など、多くの来場者を集めていました。JNTO は、日本の古民家をモチーフにしたブースを出展。和室

のセット内では、来場者が着物に着替えて写真を撮ってもらえるイベントを実施していました。そのほか沖縄県は、南国をイメージしたブースを設置し、沖縄の海岸で取れた「星の砂」を来場者にプレゼント。九州観光推進機構のブースでは「温泉アイランド九州」をテーマとして、九州７県の温泉を PR するため、温泉入浴剤入りの湯桶に手を浸して、九州の名湯を体験できるようにしていました。

他国のブースでも、特産品の試食やダンスショー、カクテルショーなど様々な方法で PR を行っていました。

ハローキティとの記念撮影会

日本以外の国も様々な手段で自国を PR

盛り上がる訪日観光市場

JNTO の発表によると、今年１月から６月の間に中国から日本を訪れた旅行者の数は、前年同期比 88.2%増の 100 万 9200 人。このままのペースで推移すれば、過去最高だった 2012 年の年間 142 万人を大きく更新し、年間 200 万人以上に達する見込みです。政治的な問題により、両国間の関係が決して良い状態にあるとは言えない中、国・地域別で見て最も高い伸び幅となっており、訪日旅行の人気の高さに驚かされます。

増加の要因としては、個人観光ビザの発給要件緩和や、航空線の増便・新規就航、円安の進行や免税措置などが挙げられますが、国や観光団体、そして自治体の積極的なプロモーションが着実に実を結んでいる結果だと言えるのではないでしょうか。

訪日観光市場はまだまだ発展途上にあり、伸び代が大きく残されています。地域の持つ魅力や価値をいかに伝えて、観光客を呼びこむか。自治体の観光戦略、そしてそれを担う自治体職員の手腕が大きく問われています。

クレア北京事務所では、今後もプロモーションの工夫を行いながら、国内で行われる旅行博等に積極的に出展を行い、地方の知名度向上と訪日旅行者の誘客促進に取り組んで行きます。

（濱岡所長補佐　香川県派遣）